

令和7年度第1回宇治市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日時】令和7年12月16日（火）午後2時から4時まで

【場所】宇治市役所8階大会議室

【出席者】

委員：郡寫会長、寫副会長、池上委員、松峯委員、岸委員、原委員、森下委員
竹元委員、小巻委員、川島委員

事務局：前田部長、西川副部長、山下課長、中村副課長、河野係長、岡係長、山副主任
中田主任、木ノ下主任

【概要】以下のとおり

（ 開会 ）

- 前田部長挨拶
- 委員の紹介
- 事務局の紹介
- 議事進行（議長：郡寫会長）
- 「宇治市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例施行規則」第9条第2項に基づく、委員の過半数の出席により本会議が成立していることの確認・報告（事務局）
- 報告①「宇治市の清掃事業の現状について」
 - （事務局報告）資料①に沿って説明
 - （質疑・応答）委員：リサイクル率にはサーマルが含まれているか。
事務局：含まれていない。
副会長：自衛隊の自己搬入量が6年度0tなのはなぜか。7年度も0t見込みか。
事務局：自衛隊からの申し入れで、訓練の一環として行っていたが、6年度は実施されず。今年度も実施はない予定。
会長：古紙回収で雑がみは回収しているのか。あわせて広報はしているか。
事務局：回収している。チラシ等で啓発活動を行っている。
会長：各数値目標は目標値に近づいているため、まもなく目標が達成される見込み。
- 報告②「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集について」
 - （事務局報告）資料②に沿って説明
 - （質疑・応答）委員：今まで不燃ごみとして回収されていたプラスチック製品が資源ごみとなるため、リサイクル率の向上が見込めるのか。見込めるなら、25%のリサイクル率にどれくらい近づくのか。

- 事務局：一定の向上は見込まれる。不燃で9%程度ごみが減少する見込みのため、その分プラスチック資源が増える見込み。実際のリサイクル率については現時点では試算していないが、25%には近づいていくと考えられる。
- 会長：リサイクル率はプラスチック等の収集量なのか、あるいは収集後の資源化量なのか。
- 事務局：品目により収集量と、選別処理後のごみ量により算出している。
- 委員：家庭のごみを減らすためには分別してもらう必要があり、PRが必要。例えば5月30日をごみゼロの日とする。それと、ペットボトルとプラを間違っ出される方が多い。分かりにくいものについて周知する配慮がもっと必要。
- 事務局：キャンペーンの展開については、例えば衛管の循環型社会推進会議にて「キエーロ」というものが紹介されている。宇治市でもその広報のための様々な方法を模索はしているものの、予算を伴うためすぐに実施は難しい。今後も、引き続き検討していく。分別については、日ごろからまち美化推進課でも多数問い合わせがあり、丁寧な説明を心がけているが、周知啓発が徹底できていないと認識している。今後、プラスチック資源回収を開始するにあたって分別も大きく変わるため、ごみ分別辞典の更新等、様々な機会を通じ、周知啓発に取り組んでいきたい。
- 会長：今回のプラスチック資源とペットボトルは別になるため、その点の啓蒙が必要。例えば具体例で、こういったものはペットボトルではないと提示する。啓蒙の仕方として、他の市町村では収集車に拡声器を設置して収集時に放送している。
- 事務局：分別の詳細については、3月1日号の市政だよりにて広報予定。
- 委員：プラスチック資源回収に直接関係はないが、農業系のプラスチックごみについて、事業系ごみになるため回収に手続きが必要。放置しておく分解してマイクロプラスチックが発生する。農業振興の担当課と連携して、処理について検討してはどうか。それから、宇治川の上流から流れてくる漂着ごみをどうするのか。また、観光客が出すファーストフード等のプラスチック製品ごみの対策として、4ヶ国語の観光客向けのチラシを作ったらどうか。
- 事務局：市が収集しているのは家庭ごみのみで、事業系ごみは対象外。観光客が排出するごみについては、収集対象外だが、ごみ処理方法やごみ箱の設置、チラシによる周知等について、関係部局と連携して取り組んでいく予定。宇治川沿いのごみについては、日本財団の海ごみゼロのプロジェクトとして、市内中学校の生徒と宇治川のごみ拾いを昨年度から実施しており、今年度も11月に実施済み。海洋プラスチックの問題については、海洋ごみ発生メカニズムを説明する動画を作成し、イベントでも広報しており、今後も継続的に取り組んでいく。
- 会長：4月から新たな収集区分となることを受けて、特にプラスチックとペットボトルについての啓蒙の仕方に検討が必要。

●報告③「循環型社会推進会議の提言を踏まえたごみ減量の取組みについて」

(事務局報告) 資料③に沿って説明

(質疑・応答)

副会長：羽毛布団のダウン含有率50%というのは、どうやって判別するのか。該当しないものは古布として古紙回収に出すのか。

事務局：商品についているタグに記載されているのと、不明な場合は、職員が現物を触って確認しているので、窓口に持参いただくか、無料資源収集でも回収している。該当しないものは不燃ごみ。

委員：他の自治体と比べても、かなりユニークな取り組みをしていると感じる。特にふれあい収集は素晴らしい取り組みなので、もっと啓発して取り組んでほしい。

委員：衛管で開催されている年間3回の啓発イベントに参加したが、ごみの現物等を展示してあり非常に分かりやすかった。宇治市でもやったらどうか。

事務局：イベント詳細について把握していないが、衛管の方に詳細を確認したうえで、宇治市でも取り組める内容については実施していきたい。

委員：定期的実施している衛管の企画展であるため、内容について宇治市と共有し、活用できるものについては提供する。

会長：衛管のインスタグラムは良い内容を投稿されているので、定期的な確認をおすすめする。ごみの削減という観点から、マイボトル等の普及について確認したい。熱中症関連で市の救急車が出動した回数は何回くらいか。もし増減あるならその理由と、市内の給水機設置数を知りたい。

事務局：毎年5月から9月の集計を消防が行っており、昨年の熱中症搬送件数は335件。今年は250件で5年ぶりに減少。減少した明確な理由は不明だが、京都文教大学や大塚製薬とも協力し、子どもも対象として熱中症のキャッチフレーズを募集する等、熱中症についての啓発を行ってきた結果と考えられる。市内の給水機設置については、熱中症の対策とあわせてクールスポットの指定という取り組みを実施。ただし、それに合わせた給水機の設置はされていない。基本的には、図書館等の公共施設等に元から設置されているもので対応している。

会長：食品ロスに関して、フードバンクを実施している件数と、市との連携について確認したい。

事務局：フードバンクを実施している団体は、2つ把握している。市では、団体と連携し、フードドライブというイベントでの取り組みをした。ただし、物価上昇により協力品が集まりにくい状況。

会長：食品ロスについては、民間同士の取り組みなのか。事業者の委員からも意見を伺いたい。市と連携はしているのか。

委員：市と連携はしておらず、提携業者と食品リサイクルという形で取り組んでいる。

●報告④その他

(事務局報告) 資料④に沿って説明

(質疑・応答)

会 長：エコアクションポイントについては、従来製品を購入することについて付与されていたが、行動について付与されるようになった。これにより、リサイクルやごみの削減がより推進されると考えられる。可能なら、ごみ拾い等のクリーン活動に対しても付与する等、もっと機会を増やしていけたら良いと思う。

副 会 長：充電電池回収時の絶縁処理については、粘着力がありさえすれば良い訳ではない。ガムテープでは危険ではないか。絶縁テープを使用する必要があるなら、より詳細な説明が必要。

事 務 局：充電電池の絶縁処理については、城南衛生管理組合と相談をしながら進めており、絶縁テープがない場合は、ガムテープ等で絶縁テープに替えることが可能と聞いている。不安な場合は、回収拠点にも絶縁テープを設置するため、そちらを利用してほしい。

●「宇治市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づく公開を行うことの確認（事務局）

事 務 局：本日いただいたご意見については、今後の業務や計画に反映していきたい。なお、今年度の審議会については、今回で終了とさせていただきます。